

## 特集にあたって

われわれは、平成十二年、立命館大学人間科学研究所2000年度プロジェクト研究Bとしてチームを発足させ、その後三年間にわたってそれに携わってきた者たちです。チームでの研究主題は、**思想形成を個人史の事例から捉えてみよう**とするものです。

哲学思想とは、従来、哲学者の思索過程における最終産物として、すべて**出来合いのもの**だけが扱われるのを常としてきました。一般に、その形成過程で多発したであろう種々の遅疑逡巡や紆余曲折は、そこでは跡形もなく消滅して、反復あらわにされ整えられた思考の形だけが後に残されることになります。

しかし、当の思索者のみならず、それを見るわれわれにとってもきわめて重要であると思われるのは、思索の出来上がりだけでなく、むしろ、消えたり隠れたりしてなかなか見えてこないその思索過程そのものであります。そこで、われわれは、綿密な彼のライフヒストリーの中に想いを回ぐらせ、そこに思索の道筋を辿ってみようと思いました。つまり、そのことを通じて意識的に思索現場に立ち会おうと心掛けたのです。

そのことを実現するには、多角的な総合的視野が求められます。そこで、どうしても専門分野も多岐にわたることになります。したがって、共同研究メンバーが哲学の分野だけでなく、心理学、教育学、宗教学、人間学などにも及ぶことになりました。

日時の調整には苦勞しましたが、それでも年間何回かの研究会や合宿討論を行い、十分とはいえないまでもささやかな研究成果を得ることができました。ここにご報告する段取りとなりましたことは、ひとえに共同研究者の皆様の御努力のみならず、資金援助くださった人間科学研究所委員会、更にまた事務当局の方々のご支援と励ましの賜物でございます。この場をお借りして心中より感謝申し上げたく存じております。まことに有り難うございました。

平成十四年師走

池 田 善 昭